

沖縄県平和祈念資料館だより

ミュージアムショップの開店 ～ 他にはない店を目指して～

平成12年4月に開館した沖縄県平和祈念資料館は、去る7月6日に300万人目の来館者をお迎えすることができました。

開館8年目を迎え、当資料館では待望のミュージアムショップを「慰霊の日」の前々日6月21日に開店しました。ショップの経営は県から施設の使用を許可された沖縄県平和祈念財団が行っており、開店1ヶ月余の現在、順調に運営されています。

ミュージアムショップは、資料館の機能・役割の増進に資するとともに、来館者利便性の向上に資するために開設するものです。そして、ミュージアムショップのグッズは、来館した方々が当館で学習したことや体験したことを記憶するためのモノとなります。

開店ほやほやの資料館のミュージアムショップのオリジナル商品は、展示を補完する案内解説書や証言集、ワークブックの印刷物のほかに、資料館や平和の礎のポストカードと種類はまだ多くはありません。来館者の期待に応えるためには、オリジナル商品を増やすことが必要ですが、美術館の美術品とは違い、平和祈念資料館の収蔵品を活用した商品開発はなかなか難しく、関係者の知恵と工夫が不可欠でしょう。

ところで、平和祈念資料館に4月に赴任して、資料館の展示は「当時を思い出してつらくて見ることができない」「子どもにはきつくて見せたくない」ということを戦争体験者

や保護者の方々から何度か聞きました。でも、だからこそ、二度と悲惨な戦争が起こらないように、沖縄戦の実相と教訓を絶え間なく次世代へ正しく継承していくこと、それが未来の展望に繋がっていくのではないかと考えております。

国境にある沖縄県に住む県民が、かつて住民を巻き込んだ悲惨な地上戦の場となったことを忘れることなく、平和を希求する県民の願いを内外に発信し、平和な世界の構築に大きな関心と行動力を発揮しなければと思います。

平和祈念資料館は、沖縄戦をテーマとして平和学習ができる機能を持った平和を発信する拠点施設です。資料館は来館者の学習環境を整えるため、沖縄戦に関する資料を収集・保存するとともに、展示活動をするための調査研究を進め、戦争と平和に関する展示や各種の普及活動を展開しています。

このような役割をもつ当資料館では、資料館のコンセプトに合致した商品の選択やショップの経営維持などの課題に対応するため、資料館、財団及び有識者が集まり、独自の商品開発の理念をもつ他にはない店を目指して、知恵を出し合っていくこととしています。

平和祈念資料館へご来館の際は、1階受付近くのミュージアムショップへぜひお立ち寄りください。ご来店をお待ち申し上げます。

沖縄県平和祈念資料館 館長 宮城 智子

平成19年度 「児童・生徒の平和メッセージ」 図画部門 最優秀作品



小学生の部
那覇市立さつき小学校 6年 山下 あかね
「平和へのねがい」



中学校の部
糸満市立高嶺中学校 3年 仲間 清香
「地球の平和」



高等学校の部
普天間高等学校 3年 金城 愛香
「『平和』を抱いて」

平成19年度事業

1. 子ども・プロセス企画展

【趣旨】

わたしたちは、21世紀を迎え、20世紀に起きた大きな戦争を反省し、地球に住む人々がお互いに手を取り、仲よく生きていく時代が来ることを願っています。

本年度も、子ども・プロセス展示室の内容を補足・発展させる取り組みとして、沖縄戦や人権、国際理解などをテーマに、「ひろば・ゆいまーる」を利用した子ども・プロセス企画展を年4回、開催する予定です。

○6月：「子どもたちと沖縄戦」

開催期間：6月8日（金）～7月17日（火）

今回の「子どもたちと沖縄戦」は、沖縄戦の最中に米軍によって撮影された子どもたちの写真パネルとともに、絵本『つるちゃん』（金城明美作）をパネル化して展示します。観覧する小中学生が、同じ年頃の子どもたちが沖縄戦でどのような状況に置かれていたのかを学ぶことで、戦争や平和についてより深く考える機会とします。



★金城明美さんの「お話と読み聞かせ」

日時：6月30日（土）午後3時より

「子どもたちと沖縄戦」の関連企画として、絵本『つるちゃん』の作者、金城明美さんによる読み聞かせ会を開催しました。会場に入りきれないほどの親子連れ約80人が悲惨な沖縄戦を体験した少女の物語に聞き入っていました。読み聞かせの後で、「つるちゃん」本人（金城ツル子さん）が登場し、子どもたちからの質問に答えていただきました。

○8月：「国際理解を深めよう 一平和を世界に一」

1 開催期間及び場所

開催期間：平成19年8月14日（火）～9月24日（月）

2 趣旨

「命どう宝・せかいの子どもたち」の展示・収集資料の中から、未展示の実物資料を展示し、国土・文化・生活などを紹介するとともに、子ども・プロセス展

示室の「平和を世界に」の内容に基づき展示を構成し開催します。

今回の「国際理解を深めよう一平和を世界に一」は、広島原爆資料館からの写真パネルとともに、人権ラブソングコンテスト入賞曲の歌詞をパネルにして展示します。また、波平雄介さんの絵画も展示し、平和と命についてより深く考える機会とします。

○11月：「人権について考えよう」

開催期間：11月22日（木）～12月23日（日）

12月10日の「世界人権デー」をはさんで、写真パネルや資料展示によって人権について考える催しとします。

○1月：「平和について考えよう」

開催期間：平成20年1月24日（木）～2月24日（日）（予定）

県内の小・中・高校生が、詩、作文、図画を通して平和について表現した「児童・生徒の平和メッセージ展」。過去数年の優秀作品を展示し、作品を参考にしながらみんなで平和について考えます。

2. 平成19年度 人権ラブソングコンテストの案内

1 目的

人権啓発活動の一環として、青少年を対象とした第4回「人権ラブソングコンテスト」を開催します。

このコンテストは、人権尊重思想の普及高揚を図り、青少年の皆様の人権問題に対する正しい知識を広めることにより、基本的人権の擁護に資することを目的として、平成19年12月9日（日）沖縄県平和祈念資料館平和祈念ホールにおいて開催します。

コンテストでは人権啓発について、最もメッセージ性があり、強い感動・共感を呼ぶ作品が選ばれ、県内アマチュアミュージシャンのメッセージが発信されます。

より多くのグループ・ユニット・ソロの出演者を募り、入賞作品はCDを制作し、県内の学校などに配布し普及を図ります。

2 応募資格・方法

(1) 沖縄県内在住か沖縄県出身で中学生以上

(2) 音楽事務所等に未所属

(3) デモテープ（CD、MD、カセット）、プロフィール（所定の応募用紙に記入）、歌詞のコピー、写真を提出（期限：11月15日）

(4) 応募曲は1曲。人権啓発に関する未発表のオリジナル曲に限る。

※ 応募曲の例：基本的人権、人類愛、平和、差別など

平成19年度

第8回 特別企画展「沖縄戦と戦争遺跡 ―戦世(イクサユー)の真実を伝えるために―」

戦後62年の時の経過と共に、沖縄戦の体験者が高齢化していくなか、戦争を遠い過去の出来事にしないため、そして、沖縄戦の歴史の事実の歪曲を許さず、今一度歴史の教訓から学び、沖縄戦についての認識を深め、未来志向の平和を考える機会として、当資料館では、第8回特別企画展「沖縄戦と戦争遺跡―戦世(イクサユー)の真実を伝えるために―」を開催いたします。

戦後62年の時の経過は、沖縄戦の体験者の減少と共に、県下に散在する戦争遺跡の崩壊や風化をもたらしています。このことは、悲惨な沖縄戦の実相を後世に伝える手段が限定されていくことに繋がることから、現在の戦争遺跡の実態を調査・記録し、後世に残す作業が必要となります。本企画展では、沖縄戦にかかわる戦争遺跡やその出土品の状況ならびに現場の証言を調査し、展示いたします。

1. 期間・場所

平成19年10月10日(水)～12月16日(日)

沖縄県平和祈念資料館(企画展示室)

平成20年1月16日(水)～2月24日(日)

八重山平和祈念館(第2展示室)

2. 目的

- (1)当館の収蔵資料だけでなく、県内の戦争遺跡関連の資料を広く公開することにより、沖縄戦への理解を深めてもらう。
- (2)最後の激戦地となった摩文仁の丘・ギーザバンタの戦争遺跡再調査を実施し、その成果を展示する。
- (3)県立埋蔵文化財センターや南風原文化センター、県内市町村と連携し、沖縄戦の戦争遺跡の状況を調査・展示することで、「戦争遺跡」や「証言」「出土品」等の物語る戦争の実相を理解してもらう。

3. 展示内容

(1) 展示資料

展示する資料は、戦争遺跡と証言・出土品や当館の収蔵品の他、県内外の戦争遺跡関連資料とする。

(2) 展示構成

◎導入の部…写真パネル・実物展示・地図
(展示壁面、展示ケースの活用)

- ①沖縄戦の原因と戦闘経緯
- ②沖縄戦の戦争遺跡の分布と概要(特徴)

◎展開の部…写真パネル・実物展示・地図
(展示壁面、展示ケースの活用)

- ①摩文仁の丘・ギーザバンタの戦争遺跡としての調査結果の展示
※摩文仁・ギーザバンタのジオラマ制作・展示
- ②県内の代表的な戦争遺跡…
中部戦線、南部戦線、北部その他の離島

◎結びの部…写真パネル・実物展示
(展示壁面、展示ケースの活用)

- ①県内自治体や学校における戦争遺跡の活用事例紹介(国頭、八重山、宮古、那覇)
- ②沖縄戦における戦争遺跡活用の今後の課題



平田清昌さん案内による資料館職員の摩文仁戦跡調査(7月18日)

第1回「沖縄戦講座」のお知らせ

沖縄県平和祈念資料館では、今年度から新規事業として「沖縄戦講座」をおこないます。

沖縄戦は、新たな沖縄戦関係資料の発見や公開などをとおして、年々研究が深まっています。「沖縄戦講座」では、県内外の沖縄戦研究家をお招きして、最先端の沖縄戦の研究の成果を発表していただきます。

第1回「沖縄戦講座」

演題「沖縄戦と戦争遺跡 ―南風原陸軍病院壕の保存・公開をととして―(仮題)」

講師:吉浜 忍 沖縄国際大学教授

沖縄県平和祈念資料館運営協議会委員

- ①日 時……平成19年11月4日(日)午後2時から4時
- ②会 場……沖縄県平和祈念資料館 平和祈念ホール
- ③入 場 料……無料
- ④募集人員……230名
- ⑤応募方法……9月10日(月)から電話・FAXで申し込み。(先着順)

平成19年度

第17回

「児童・生徒の平和メッセージ」入選者一覧

今年は県内160校より図画1,969点、詩1,629、作文285点
で合計3,883点の過去最高の応募がありました。ご応募あ
りがとうございました。県内外へ平和のメッセージを届けた
と思います。審査の結果を発表いたします。

[小学校の部] (32名)

1. 図画部門 (11名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	山下 あかね	那覇市立さつき小学校	6
優秀賞(2)	亀島 伶来	那覇市立さつき小学校	1
	宮里 文康	宜野座村立松田小学校	6
優良賞(8)	崎原 健呂	竹富町立西表小学校	2
	阿利 望	竹富町立西表小学校	3
	平川 梨乃	宜野座村立漢那小学校	4
	呉屋 多恵花	沖縄市立室川小学校	5
	島川 茉莉乃	那覇市立さつき小学校	6
	西銘 春樹	那覇市立さつき小学校	6
	前泊 江里香	南風原町立北丘小学校	6
	山城 みなみ	与那原町立与那原小学校	6

2. 作文部門 (11名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	嘉納 佳子	読谷村立読谷小学校	6
優秀賞(2)	福地 優奈	那覇市立さつき小学校	4
	西平 笑香	糸満市立真壁小学校	6
優良賞(8)	阿波根 昌翔	伊江村立西小学校	4
	大城 里奈	糸満市立糸満南小学校	5
	上原 唯	糸満市立潮平小学校	5
	又吉 峻平	糸満市立喜屋武小学校	5
	連天 優奈	南風原町立北丘小学校	6
	徳田 安聡	那覇市立さつき小学校	6
	徳元 麻衣子	糸満市立米須小学校	6
	稲福 園子	竹富町立小浜小学校	6

3. 詩部門 (10名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	嘉納 英佑	読谷村立読谷小学校	3
優秀賞(3)	竹富 倫史	糸満市立高嶺小学校	6
	金城 愛佳里	糸満市立西崎小学校	6
	金城 琉南	那覇市立真地小学校	6
優良賞(6)	安里 一香	宮古島市立平良第一小学校	2
	赤嶺 恵菜	那覇市立さつき小学校	6
	川満 有華	南風原町立北丘小学校	6
	玉城 達郎	南風原町立北丘小学校	6
	松長 悠花	豊見城市立とよみ小学校	6
	仲村 沙羅	豊見城市立とよみ小学校	6

[中学校の部] (32名)

1. 図画部門 (10名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	仲間 清香	糸満市立高嶺中学校	3
優秀賞(2)	神村 朱弥奈	浦添市立仲西中学校	3
	藤田 毬音	糸満市立西崎中学校	3
優良賞(7)	喜舎場 愛月	石垣市立石垣中学校	1
	宮里 侑希	那覇市立松島中学校	1
	安里 比良	北谷町立桑江中学校	3
	大城 麗美	南風原町立南星中学校	3
	嘉手納 真美	中城村立中城中学校	3
	砂川 知三	石垣市立伊原間中学校	3
	高江洲 美憂	豊見城市立豊見城中学校	3

2. 作文部門 (11名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	與儀 かれん	那覇市立那覇中学校	1
優秀賞(2)	高山 塊	竹富町立船浦中学校	2
	矢野 航平	竹富町立船浦中学校	2
優良賞(8)	谷 薫子	石垣市立石垣中学校	1
	真玉橋 和	石垣市立石垣中学校	1
	宮城 華純	名護市立久辺中学校	2
	伝法 紀美香	豊見城市立長嶺中学校	2
	平良 美乃	石垣市立石垣第二中学校	2
	金城 里乃	名護市立久辺中学校	3
	高良 真乃	石垣市立伊原間中学校	3
	伊志嶺 飛鳥	石垣市立石垣中学校	3

3. 詩部門 (8名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	匹田 崇一郎	沖縄尚学高等学校附属中学校	2
優秀賞(2)	安室 早姫	沖縄県立沖縄盲学校	3
	親川 美鈴	南風原町立南星中学校	3
優良賞(5)	玉城 睦美	西原町立西原東中学校	1
	石黒 愛	石垣市立石垣第二中学校	3
	賀敷 美和子	那覇市立石嶺中学校	3
	神里 聖奈	南風原町立南星中学校	3
	知花 かおり	読谷村立読谷中学校	3

[高等学校の部] (27名)

1. 図画部門 (10名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	金城 愛香	県立普天間高等学校	3
優秀賞(2)	玉城 安菜	県立那覇高等学校	1
	大野 芽依	県立宜野座高等学校	2
優良賞(7)	新垣 真美	県立小祿高等学校	1
	大城 百代	県立那覇高等学校	2
	大濱 恵理	県立那覇高等学校	2
	川畑 智華	県立普天間高等学校	2
	知念 大介	県立那覇高等学校	2
	謝名 沙也加	県立糸満高等学校	3
	比嘉 沙津希	県立普天間高等学校	3

2. 作文部門 (7名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	該当者なし		
優秀賞(2)	松田 けい	県立読谷高等学校	3
	赤嶺 朱香	県立那覇高等学校	3
優良賞(5)	塚本 真衣	沖縄尚学高等学校	1
	大浜 扶美野	沖縄尚学高等学校	2
	多和田 真弥	沖縄尚学高等学校	2
	安次富 友己	県立那覇高等学校	3
	山里 江利奈	県立糸満高等学校	3

3. 詩部門 (10名)

賞別	名前	学校名	学年
最優秀賞	仲地 愛	県立球陽高等学校	1
優秀賞(2)	具志堅 靖知	県立コザ高等学校	2
	比嘉 雄人	県立向陽高等学校	3
優良賞(7)	塚本 真依	沖縄尚学高等学校	1
	山城 祐	県立沖縄盲学校	2
	友利 夏美	県立開邦高等学校	2
	栗國 亜耶香	県立那覇高等学校	3
	石原 佳苗	県立那覇養護学校	3
	上地 彩香	県立宮古高等学校	3
	浜元 優美	県立宮古高等学校	3

「平成19年度 新収蔵品展」

1. 期間・場所

平成19年6月20日(水)～7月31日(火)
沖縄県平和祈念資料館(企画展示室)

2. 目的

平成16年度から18年度までの過去3年間に寄贈いただいた貴重な資料を一般に公開し、県内外の一人でも多くの方々に資料を見てもらい、平和への思いを新たにしてもらうとともに御寄贈・御寄託していただいた皆様へ感謝の意を表すために開催いたしました。

3. 展示内容

対馬丸で遭難し埋葬された方々の氏名が書かれた手帳、戦前の地図類、戦地沖縄と本土にいる家族との間で交わされた葉書等、防空頭巾、弾丸がめり込んだ木片、東条英機からの感謝状など戦前・戦中・戦後の資料500点を展示しました。

6月20日のオープニングセレモニーでは、多数のマスコミの取材もあり、また、開催期間中は、寄贈者をはじめ、たくさんの方々が訪れ大盛況でした。

今後とも当資料館においては、寄贈寄託資料を含め沖縄戦等に関する資料収集に努めるとともに、一般に公開していくこととしています。



オープニングセレモニーでのテープカット



新収蔵品展観覧風景

児童・生徒の平和メッセージ展

(1) 趣旨・展示内容

児童・生徒の平和に関する「図画・作文・詩」の創作活動を通して、児童・生徒が戦争と平和について考え、平和を尊ぶ心を育てる機会とし、応募作品の中から優秀な作品を選定し、入賞作品を展示しました。

これまでの作品には、全国的な児童書に掲載されたり、国語副読本へ掲載される作品もできました。

今年度も沖縄尚学高等学校附属中学校2年生の匹田崇一郎さんの中学の部詩最優秀作品が多数の共感を呼び県内新聞・全国紙でも大きく取り上げられました。平和メッセージが全国へ着実に届きつつあると実感しております。

(2) 開催期間

- | | |
|--------------|-------------------|
| ○沖縄県平和祈念資料館 | 6月23日(土)～7月10日(火) |
| ○八重山平和祈念館 | 7月17日(火)～7月26日(木) |
| ○宮古島市平良庁舎ロビー | 7月30日(月)～8月3日(金) |
| ○県庁1階(県民ホール) | 8月13日(月)～8月17日(金) |



今年度のメッセージ展本館テープカット

ミュージアムショップ開店

6月21日 資料館開館以来の懸案でありましたミュージアムショップがオープンしました。

当該ショップは、資料館の利用者の利便性の向上を図るとともに、館の印刷物の販売などをおして、沖縄戦の実相の継承と平和の発信という資料館の機能・役割を補完するものであり、資料館に新たな魅力と広がりをつけ加える施設でもあります。

ショップは開店以来多くの方々にご利用して頂いていますが、今後とも資料館の役割にふさわしい商品を取り揃え、皆さんに喜んで貰えるショップ運営に努めます。



<ショップの概要>

店 名：沖縄県平和祈念資料館ミュージアムショップ
面 積：27.70m² (入口左側のコーナー)
営 業 日：平和祈念資料館の開館日
営業時間：9:00～17:00
取扱品目：資料館刊行物、沖縄戦関係図書、ビデオ・DVD、
福祉作業所製品、伝統工芸品、資料館オリジナルポストカード等
ショップ経営：財団法人 沖縄県平和祈念財団
(ショップ TEL・FAX 997-5300、財団 997-2765)



常設展示室ポイント解説始まる!

平成16・17・18年度の3年間に実施された「ボランティア養成講座」の修了生による常設展示室ポイント解説が、6月16日(土)から始まりました。

常設展示については、見学者アンケートから「もっとくわしい説明がほしい。」との要望を受け、特に解説が必要とされる第1展示室「沖縄戦への道」と第3展示室「地獄の戦場」でのポイント解説がスタートしました。第1展示室では、「大東亜共栄圏総図」を見ながら、日中戦争の長期・泥沼化から太平洋戦争が始まり、その最後の戦闘が沖縄戦であることを説明しています。第3展示室では、ガマ(洞くつ)の中で、極限状態に追い込まれた住民と軍隊とのせめぎ合いの様子や住民のスパイ視、野戦病院の南部撤退時の重傷兵への青酸カリによる「処置」などの様子を説明しています。

6月16日(土)は、大城藤六友の会会長をはじめ役員のみなさんと、ポイント解説員第1号となった友利恵徳さん、宮城智子館長によるテープカットがおこなわれました。



友の会役員・宮城館長らによるテープカット



ガマのなかで解説をする友利恵徳さん

人権ラブソングコンサート報告

6月23日慰霊の日、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が平和祈念公園で開かれ、多くの方々が無名戦没者に祈りを捧げ、恒久平和を誓いました。当館では常設展示室の無料入館や様々な催し物を実施しました。昨年度より人権ラブソングコンテスト入賞者のみなさんが中心となって始めた平和コンサートを、今年度は、「人権ラブソングコンサート」と銘打って、7組の皆さんが集まりコンサートを開催しました。出演者の安里桂子さんやNYA(ニャ)☆☆のメンバーは、この日のために作った曲を初披露していただきました。

八重山平和祈念館 平成19年度 事業実施報告

(1)「戦争体験者が描く沖縄戦の絵」展

●期間:平成19年6月1日(金)～6月30日(土)

NHK沖縄放送局と県平和祈念資料館が、戦争の記憶と記録を残していくため、戦後60年の年に募集した「体験者が描く沖縄戦の絵」を展示する企画展を開催しました。

開催期間中、平和学習で来館した地元の児童生徒や修学旅行生をはじめ、1,885名の観覧があり、「戦争は怖い、心が痛かった」「二度と戦争は起こしてはいけないと強く思った」など、たくさんのご感想をいただきました。



(2) 慰霊の日「アニメ上映会」

●期間:平成19年6月23日(土)午後2時より

6月23日の慰霊の日に、太平洋戦末期、八重山で起きた「戦争マラリア」を知り、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えてもらおうと、戦争マラリアを題材にしたアニメ『石の声ー沖縄戦マラリア地獄の記憶ー』等を上映するアニメ上映会を開催しました。

当日は、児童生徒や親子づれ等、約100名が来場し、アニメ上映を真剣に見入る姿が見られました。



(3)「第6回 平和コンサート～音楽は平和のメッセージ～」

●日時:平成19年6月24日(日)午後5時30分より

6月23日の慰霊の日にあわせ、「音楽は平和のメッセージ」をテーマに、篠原武夫・八重山戦争マラリア遺族会会長による講演「八重山戦争マラリアの実態と問題解決の経緯」や、戦争マラリアを題材にした「星になった子どもたち」などの平和に関する曲等を演奏する「平和コンサート」を開催しました。

当日、会場は約100名の聴衆にあふれ、講演や演奏にじっくり聞き入り、平和の大切さについて考える姿が見られました。



《連絡先》

住 所：〒907-0014 沖縄県石垣市新栄町79番地の3
TEL/FAX：0980-88-6161
E-mail：yaeyamaheiwa-mararia@basil.ocn.ne.jp

入館者300万人目突破!



300万人目の記念品を手に宮城館長と一緒に記念撮影をする東京都豊島学院高等学校2年生 仲野宏美さん

入館者300万人目

開館以来、県内外から多くの皆様が当資料館を訪れています。平成19年7月6日には、平成12年4月の移転改築以来300万人目のお客さんが訪れました。

今後も資料館では、一層の展示の充実・事業の充実を図り、平和を発信する役目を担っていかう考えておりますので、今後とも皆様の御来館をお待ちしております。

コメント:「このような素晴らしい記念に加えられたことを嬉しく思います。これからも沢山の方が訪れるといいなと思います。」

写真の中の少年

(中学校 詩 最優秀)

沖縄尚学高等学校附属中学校 二年 匹田 崇一朗

何を見つめているのだろうか
何に震えているのだろうか
写真の中の少年
周りの老人や女性、子供は
身を寄せ合って声を殺しうすくまっている
後ろでは逃げ出さぬようにと
鋭い眼光で見張るアメリカ兵
その中で少年はひびく古きを見つめている
何を思っているのだろうか

とうとう戦争はやつて来た
いつ来るとも知れない恐怖に怯えながら
少年に生きて来た
少年のもとに
悪魔はとうとうやつて来た

戦争で異郷の地にいる父や兄に代わって
ひとり毎日山へ行き
家族を守りたいその心で
防空壕を掘り続けた少年
しかし無情にも堅い岩が
少年の必死の思いをあざ笑うかのよう
に行く手を阻み掘り進む事ができない
手には血豆
絶望感と悔しさが涙とともにあふれ出た

とうとうやつて来た
奴は少年のすぐそばまでやつて来た
殺される 死ぬのだ
そんな恐怖が少年を震わせ凍らせた

やつの思いで入った親戚の防空壕
泣きじゃくる赤ん坊の口をふさぎ
息を殺して奴の通り過ぎるのを祈った
少年は無我夢中で祈った
しかし祈りは天には届かなかった
壕の外でアメリカ兵の声
「出て来い」と叫んでいる
出て行くと殺される
「もう終わりで」
少年は心の中でつぶやいた
先頭に立って出て行くことする母親を

少年は幼い手で必死に引き止めた
けれどいつしかその手は離れ
母親はアメリカ兵の待つ入り口へ
それに続いて壕の中から次々と
少年や親戚が出て行った
写真はまさにその直後に撮られたものだ
とうとうやつて来た
恐怖に怯え 夢や希望もなく
ただ生きるだけ
家族を守るだけ
必死にならなければならぬ少年のもとに
悪魔はやつて来た

写真の中の少年
一生を思いつめ何を思っているのだろうか
写真の中の少年 僕の祖父
何を思っているのだろうか
どんな逆境の中でも最後まであきらめずに
頑張つて生き抜いてきた祖父
だから今の僕がいる
命のリレーは
祖父から母へ 母から僕へと
つながった

あの時祖父が生きていることをあきらめず
必死で生きてきたから僕がいる
だから
自分で自分の命を絶つたの
他人によつて奪われたらという不安
いつの世でも いかなる場合でも
決してあつてはならないことだ

僕がいる
必死で生き抜いてきた少年がいたから
僕がいる
僕はその少年から受け継いだ
命のリレーを大事に絶やさないこと
僕なりに精一杯生きていこう
また少年から聞いた
あの恐ろしい戦争の話を
風化させないこと
語り継いでいこう

資料のご提供について

戦後62年が経ち、戦争を知らない多くの戦後世代へ、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくためには、戦前、戦時中、終戦後の資料等がますます重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方、貴重な思い出の品々かとは存じますが、ご提供をたまわり、今後に活用させていただきますようお願いいたします。

ビデオの貸出について

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」全26巻の貸出しと資料館制作の沖縄戦ビデオ「そしてぼくらは生き残った」のビデオの貸出しを行なっています。どうぞ、事前学習等でご活用ください。

編集・発行: 沖縄県平和祈念資料館

住所: 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1 TEL: 098-997-3844 FAX: 098-997-3947

URL: www.peace-museum.pref.okinawa.jp

E-MAIL: webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp